



## 1. 現代GP知財教育(取組概要)

## (1)取組概要

### 地域医療従事者・医学研究者支援型知財教育について

#### 【取組名称】

平成 17 年度選定現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定  
「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」

#### 【取組期間】

平成 17 年度～平成 20 年度

#### 【取組概要】

日本の医療系研究においては、これまでの厚い研究成果が知財化されていないという現状と地域医療に従事しながら研究を続ける医療関係者も多いという特色がある。

このため、本計画においては、医療系の専門教育機関としての立場と、卒業生の多くが北海道全域で地域医療に従事しているという道立大学としての特色を生かしつつ、学生の多様なニーズ、意欲にも対応できるよう、知財への関心喚起を狙いとした入門講座から、研究成果の実効的な技術移転を可能とする研究者の養成まで、そのおかれているポジションなどに応じた5つのコース別知財教育への取組を行う。

これらの取組により、法学系の知財管理者育成型教育とは異なる、知財リテラシーを活用できる医療系研究者育成を目的とした研究者支援型知財教育のプロトタイプを確立し、医学研究という生命に直結する研究成果の迅速な技術移転に資する。

#### 【知的財産教育コースの説明】

##### コース1: 学部学生への知財入門教育

- ・対象 : 学部学生
- ・目標 : 知財への関心喚起に重点をおいた入門コース。
- ・内容 : 意外と知られていない知財に関する常識等、研究者の実践事例や知財によるインセンティブ付与等  
「地域医療と発明」、「発明とその対価」、「学会発表と発明」、「各国における特許制度」等
- ・提供方法: 講義、セミナー、フォーラム、シンポジウム
- ・年間時数: 4～5時間程度

##### コース2: 大学院生への知財基礎教育

- ・対象 : すべての大学院医学研究科学生
- ・目標 : 研究者として最低限必要な知財知識を供与するコース。
- ・内容 : 基礎的な知財知識(特許を睨んだ実験の進め方、バイオテクノロジーの知財、共同研究の進め方、利益相反、知財法制の基礎、明細書の構造、侵害訴訟の基礎、世界特許、先行技術調査、契約法務の実際等)
- ・提供方法: 研修プログラム、研究入門ゼミナール、大学院特別講義
- ・年間時数: 10時間程度

**コース3**: 大学院生への知財体系教育

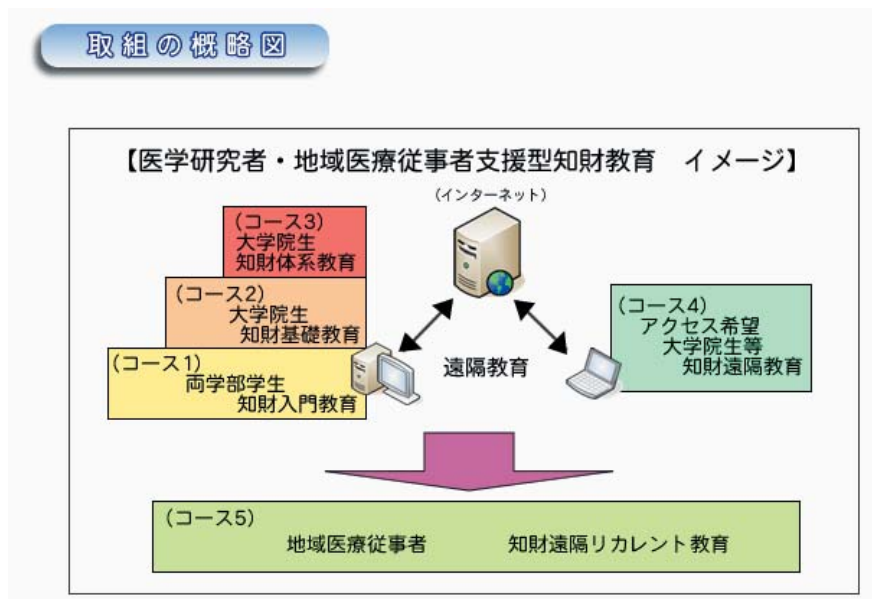
- ・対象 : 特に知財への関心が高い大学院学生
- ・目標 : 専門的・実践的・体系的な知財知識を供与するコース  
(事例研究を多用し、特許明細書作成トレーニング等の実践を重視)
- ・内容 : ①課題学習: 「技術移転を見据えた医学研究」、「知財法制の枠組み」、「出願までの実務」、「知財マネジメント」、「侵害訴訟」等  
②特別演習: 自己の研究等を素材とした請求項の組み立て、明細書の作成、先行技術調査などについての実践トレーニング  
③オプションユニット: ベンチャー、ビジネスモデル、侵害訴訟といった課題について、更に進化させた選択制オプションコース
- ・提供方法: 講義、セミナー、ケーススタディ、企業とのリエゾンセミナー等
- ・年間時数: 15時間程度

**コース4**: 大学院生への知財遠隔教育

- ・対象: 地域医療に従事しながら研究を続ける大学院生
- ・目標: 対象者の興味やニーズに応じて、医学研究者として最低限必要な知財知識から専門的・実践的・体系的な知財知識を供与するコース
- ・内容: 主に、コース1～コース3で蓄積された教材
- ・提供方法: e-learning

**コース5**: 知財遠隔リカレント教育

- ・対象: 地域医療に従事しながら研究を続ける医療関係者  
(医師、看護師、理学療法士、作業療法士)
- ・目標: 対象者の興味やニーズに応じて、医学研究者として最低限必要な知財知識、より専門的・実践的・体系的な知財知識を供与するコース
- ・内容: 主に、コース1～コース3で蓄積された教材
- ・提供方法: e-learning



# SITE

~ Sapporo medical university Intellectual property Team for Education ~

~札幌医科大学知的財産教育特別委員会~

## 札幌医科大学知的財産教育特別委員会(SITE：サイト)名簿

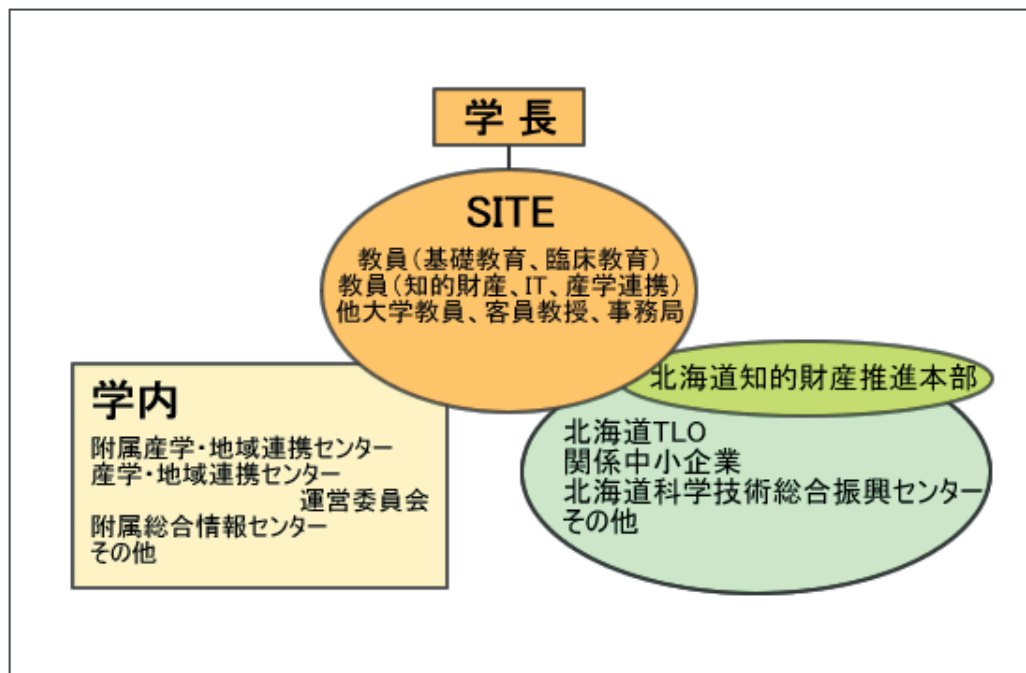
職名	氏名	備考
学長	今井 浩三	
情報センター副所長	明石 浩史	
産学・地域連携センター 副所長・知的財産部門長	石埜 正徳	衛生学准教授、弁理士
保健医療学部 臨床理学療法学講座教授	片寄 正樹	
医学部産婦人科学講座教授	斉藤 豪	
客員教授	佐々木 信夫	
医学部第三内科学講座教授	高橋 広毅	
事務局経営企画課長	中村 進	
産学・地域連携センター所長	濱田 洋文	医学部分子医学研究部門教授
医学研究科副研究科長	堀尾 嘉幸	医学部薬理学講座教授
小樽商科大学商学部 経営学講座教授	松尾 陸	
産学・地域連携センター 産学連携部門長	三高 俊広	医学部がん研究所 分子病理病態学部門教授
医学部カリキュラム委員会委員長	森 満	医学部公衆衛生学講座教授

(委員は、五十音順。平成20年3月現在)

## 知財教育実行組織

職名	氏名	備考
チーフ	石埜 正穂	産学・地域連携センター副所長・知的財産部門長
スタッフ	黒須 成弘	産学・地域連携センター主査
スタッフ	佐々木 素子	産学・地域連携センタースタッフ
スタッフ	澤田 絵里子	産学・地域連携センタースタッフ
スタッフ	深谷 佑紀	客員研究員
スタッフ	一瀬 信敏	産学官連携コーディネーター
スタッフ	小野寺 雄一郎	客員研究員・NEDO フェロー

(平成 20 年 3 月現在)



## (2)知的財産教育講義実績

札幌医科大学 知的財産教育コース 実績一覧表（平成18年度・平成19年度）

該当コース	主催		科目	年度	講義名	講師	所属		
コース1	入門	学部	医学部	応用情報医科学 (第3学年・必修・1単位)	18	医学医療と知的財産権	石笠正徳	副所長	附属産学・地域連携センター
				19					
			医療情報学(第4学年・必修・1単位)	18					
			19						
		保健医療学部	保健医療総論Ⅲ	18					
			19						
			保健医療総論Ⅳ	18					
19									
コース2	基礎	大学院	前期研修プログラム	18	医学研究と知的財産権	今井浩三	学長	札幌医科大学	
			基礎研究入門コース	第21講：研究成果の保護－研究ノートの活用について－	18	濱田洋文	所長	附属産学・地域連携センター	
				第22講：本学における知的財産権の管理と活用について	18	石笠正徳	副所長	附属産学・地域連携センター	
				題20講：研究と知的財産	19	石笠正徳	副所長	附属産学・地域連携センター	
		産学・地域連携センター(知財GP)	知的財産教育コース(基礎)	ハイオメディカル分野の特許化	18	石笠正徳	副所長	附属産学・地域連携センター	
				研究成果の利用・活用と契約・法律		小林浩	弁理士	阿部・井窪・片山法律事務所	
				研究のオリジナリティを高める先行文献調査－特許におけるその意義と実際－		内海司	弁理士	特許業務法人ピー・エス・ディ	
一瀬信敏	産学官コーディネーター	附属産学・地域連携センター							
コース3	応用	産学・地域連携センター(知財GP)	知的財産教育コース(体系)	18	特許明細書の構造と先行文献調査－医療関連発明を中心として－	葛和清司	弁理士	葛和国際特許事務所	
					国際契約にどう対処するか－Non Disclosure Agreement等をてがかりに考える－	中村秀雄	教授	小樽商科大学大学院商学研究科	
					創薬技術・ビジネス論	田中秀穂	助教授	京都大学大学院医学研究科	
					企業知財マンからみた産学連携	酒井貢	ライセンス担当部長	オリンパス株式会社知的財産渉外部	
					ハイオメディカル分野の研究の特許化について	上條肇	助教授	東京大学大学院新領域創成科学研究科	
				19	ハイオ・創薬・医療分野における技術移転	田中秀穂	准教授	京都大学大学院医学研究科	
					海外における特許の取得について	葛和清司	弁理士	葛和国際特許事務所	
					大学における産学連携活動の実際と今後について－奈良先端科学技術大学院大学の事例から－	久保浩三	教授・弁理士・センター長	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究調査センター	
					臨床研究と新医療開発プロセス－TR/初期臨床研究と産学連携・共同研究－	樋口修司	産学官コーディネーター・特任教授	京都大学医学部附属病院医療開発管理部長	
					知的財産の事業家－臨床現場から生まれるビジネス－	大竹秀彦	代表取締役社長	MPO株式会社	
					ライフサイエンス分野における大学の知財戦略－東京医科歯科大学の技術移転の現状も含めて－	橋本一憲	特任准教授	東京医科歯科大学 知的財産本部	
					契約の基礎－英文MTA(Material Transfer Agreement)を読む－	中村秀雄	教授	小樽商科大学大学院商学研究科	

※ 講師の肩書きについては、ご講演時の名称としております。

札幌医科大学 知的財産教育シンポジウム・セミナー 実績一覧表（平成18年度・19年度）

該当コース	主催	科目	年度	講義名	講師		備考
コース1～3	産学・地域連携センター(知財GP)	知財GPシンポジウム(	17	基調講演「これからの医学研究と知的財産」	井村裕夫	理事長	財団法人先端医療振興財団
				事例紹介「バイオ・医学領域の技術経営、知的財産経営～京都大学における教育と研究の取り組み～」	田中秀穂	助教授	京都大学大学院医学研究科
				札幌医科大学の知的財産教育の取組の紹介	石笠正穂	室長・助教授	札幌医科大学知的財産管理室・医学部衛生学講座
		知財GPシンポジウム(平成18年6月)	18	基調講演「大学と知的財産－知的財産立国への貢献－」	守屋敏道	特許技監	特許庁
				パネルディスカッション特別講演「新しい医療の実現と大学の役割」	宮田満	センター長	日経BP社バイオセンター
				パネルディスカッション	濱田洋文	所長	札幌医科大学附属産学・地域連携センター
					橋本一憲	特任助教授	東京医科歯科大学知的財産本部
					杉本直樹	シニアアシエイト	リクルートテクノロジーマネジメント開発室
					扇谷悟	副研究部門長	産総研ゲノムファクトリー研究部門
	石笠正穂	副所長	札幌医科大学附属産学・地域連携センター				
	【医療倫理講演会】知財GP特別セミナー(平成19年2月)	18	臨床研究とアカウンタビリティ(説明責任)の確保	平井昭光	弁護士・弁理士 東京医科歯科大学客員研究員	レックスウエル法律特許事務所長	
	産学・地域連携センター(知財GP)	知財GPシンポジウム(平成20年3月)	19	特別講演:「医学系知財を活用した地域貢献活動とは」	佐野太	学長特別補佐(前文科省研究環境・産業連携課長)	山梨大学
				パネルディスカッション	濱田洋文	所長	札幌医科大学附属産学・地域連携センター
					杉原伸宏	講師	信州大学医学部知的財産活用センター
					松井純	産学官連携コーディネーター	三重大学
辻 泰弘					課長	北海道庁	
石笠正穂	副所長	札幌医科大学					
北海道大学知的財産本部・札幌医科大学附属産学・地域連携センター 共催	特別セミナー(平成19年5月)	19	シリコンバレーから見た、米国バイオビジネスの動き－M&Aと変わりつつあるベンチャービジネス	八木博	理事	JUMBA(Japanese University Network in the Bay Area)	
			北海道大学における国際的知的財産活用戦略について	鈴木真也	知的財産チームマネージャー特任准教授	北海道大学知的財産本部	
			アメリカの大学におけるMTAの取扱いについて	津田明子	知的財産チームマネージャー特任助教		
			札幌医科大学における知的財産教育について	石笠正穂	副所長	札幌医科大学附属産学・地域連携センター	

※ 講師の肩書きについては、ご講演時の名称としております。



### (3)知的財産教育講義マップ

#### 【応用編】 知的財産制度の有効な活用

研究を進めるには、科学文献だけではなく、先行特許文献の検索も重要です。また、医学研究成果は、海外に出願することが主流となっています。これらの現状を、バイオの出願の多くを扱っている弁理士などから、講演していただきます。

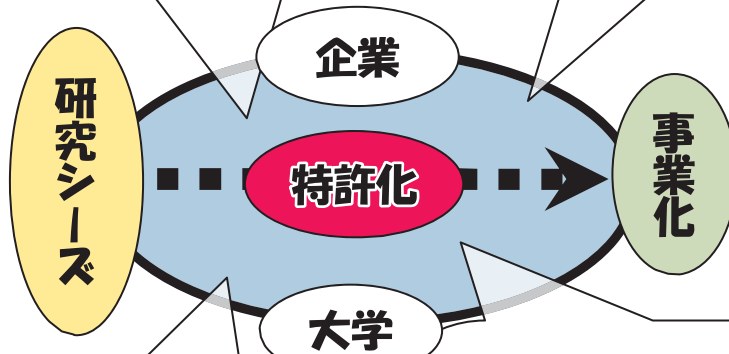
- (9) 応用：特許明細書の構造と先行文献調査  
—医療関連発明を中心として— (p.21)
- (10) 応用：海外における特許の取得につい (p.23)
- (11) 応用：国際契約にどう対処するか  
—Non Disclosure Agreement 等を手がかりに考える— (p.25)
- (12) 応用：契約の基礎  
—英文 MTA 契約(Material Transfer Agreement) などを読む— (p.27)

#### 【応用編】

#### 医療技術の開発における実態

医学の研究成果の実用化に至る苦労や課題は、創薬、治療法、医療機器など開発された成果によりさまざまです。企業との共同研究、研究成果を臨床の現場に適用するトランスレーショナルリサーチ、治験などの実態について、講演していただきます。

- (13) 応用：創薬技術・ビジネス論 (p.29)
- (14) 応用：バイオ・創薬・医療分野における技術移転 (p.31)
- (15) 応用：企業知財マンからみた産学連携 (p.33)
- (16) 応用：バイオメディカル分野の研究の特許化について (p.35)



#### 【基礎編】

- (1) 基礎：医学研究と知的財産 (p.8)
- (2) 基礎：研究成果の保護  
—研究ノートを活用について— (p.9)
- (3) 基礎：本学における知的財産権の管理と活用について (p.10)
- (4) 基礎：知的財産権入門（学部生向け） (p.11)
- (5) 基礎：生命科学と特許（大学院生向け） (p.13)
- (6) 基礎：研究のオリジナリティを高める先行文献調査—特許におけるその意義と実際— (p.15)
- (7) 基礎：バイオ・医学分野の先行文献調査の実際 (p.17)
- (8) 基礎：研究成果の利用・活用と契約・法律 (p.19)

#### 【応用編】

#### 医学研究成果の実用化と産学官連携

創薬、治療法、医療機器など、さまざまなカテゴリーにおける医療技術の実用化開発において、産業界との連携や工学・経営学の専門家等との協力などを通じた知財活用の実態を、企業で製品開発に携わっている方などから、講演していただきます。

- (17) 応用：大学における産学連携・知的財産活動のポイント (p.37)
- (18) 応用：知的財産の事業化—臨床現場から生まれるビジネス— (p.39)
- (19) 応用：大学におけるバイオ基礎研究成果の知財戦略 (p.41)
- (20) 基礎～応用：利益相反(COI)の考え方 (p.43)